

# 新年のご挨拶

公益社団法人 日本獣医師会

会長 藏内 勇夫



新年あけましておめでとうございます。日本獣医師会の会員及び構成獣医師の皆様におかれましては、ご健勝にて新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は本会の事業推進にご協力とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。昨年6月22日の本会第72回通常総会における再任のご挨拶で申し上げましたように、会員である地方獣医師会及び構成獣医師の皆さんと、出来る限り情報を共有し、ご理解の下で判断を誤ることなく、スピード感を持って課題に対応し、会長としての責務を果たしてまいります。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

本会の活動の基本は、日本獣医師会・獣医師会活動指針にありますとおり、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を実践することにあります。すなわち、「我々、獣医師は、日本獣医師会・獣医師倫理綱領の『獣医師の誓い95年宣言』が規定する専門職業倫理の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興並びに普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断と治療、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている」のであります。

更に、当指針では、「獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、『動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。』を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する」と追記してあります。

この指針に基づいて、獣医師としての専門的知識と技術を駆使して、社会に貢献する責任があります。また、当指針の「獣医師の誓い95年宣言」にあります「獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。」と「相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める。」は、高度専門職業人である獣医師の進むべき方向と獣医師会を発展させる道筋が示されていると言えます。

本会は、人と動物の共通感染症の防疫推進及び食中毒の発生抑制等を課題として、平成25年11月に公益社団法人日本医師会との間で、学術協力の推進に関する協定書を取り交わし、「One World, One Health」の理念に基づく両会の学術連携に向けて歩み始めました。この学術連携の強化を図り、協力の推進を加速させるため、本会に医師会との連携推進委員会を設置し、両会所属の獣医師と医師への最新の学術情報の提供に取り組んでいます。シンポジウムは、これまでに3回開催し、いずれも多くの医師と獣医師、更には多くの関係職域の方々に参加され、成功裏に終了しています。

第4回のシンポジウムは、本年2月27日、秋田市での本会の学術学会年次大会で「One Healthを考える」と題して開催されます。世界獣医師会（World Veterinary Association：WVA）の副会長で次期会長の

Johnson Chiang 博士により「WVA の活動戦略とその期待」が、アジア獣医師会連合 (Federation of Asian Veterinary Association : FAVA) の事務局長で WVA 評議員の Achariya Sailasuta 博士より「FAVA の活動戦略」が、日本医師会の横倉義武会長より「日本医師会の活動戦略」が講演されます。私もシンポジストを務め、「日本獣医師会の活動戦略」を講演いたします。皆様方には是非ともシンポジウムにご出席いただき、「One Health」を一緒に考えてまいりましょう。

本会に所属する獣医師と日本医師会の医師、更には広く国民の皆さんに最新の学術情報を提供することは、人と動物の共通感染症の防疫体制の整備をはじめ、わが国の公衆衛生の基盤強化に資すると考えています。このことは、地方獣医師会においてもご理解をいただき、これまでに 29 の地方獣医師会で、地方医師会と協定書が取り交わされてきました。しかし、まだ未締結の地方獣医師会があることから、各地方獣医師会にアンケートをお送りし、締結されていない場合は、本会がどのように締結推進に協力をするかを把握し、今期中に全ての地方獣医師会が地方医師会と締結されますことを期待しています。

また、医師会との学術締結は、学術協力にとどまらず、組織強化や活動推進を図る上から学ぶ点が多いと思われるので、この締結を介して本会の組織強化や要請活動の推進に反映出来ればと期待しています。

1885 年 (明治 18 年) 8 月 22 日、太政官布告第 28 号で獣医師免許規則が公布されて本年で 130 年が経過し、また 1995 年 (平成 7 年) 9 月 3～9 日、横浜でアジア地域初めてとなる第 25 回世界獣医師世界大会が開催されて 20 年が経過しました。特に世界大会は、獣医界において大会を成功させた自信と、世界水準の学術や教育を垣間見て、一層努力し、改善しなければならないことを考えさせた機会でもありました。

その後、本会並びにわが国の獣医界は大きく発展してまいりました。課題はスピード感を持って的確に対処してまいりますが、一方では、国際交流や国際活動の推進が重要であると考えられます。平成 27 年度の活動計画にありますが、WVA と FAVA の一員である本会は、獣医学術の国際交流に積極的に取り組む必要があります。しかし、両国際組織は、情報交換や学術交流を行っていますが、その主体は獣医学教育の改善、人と動物の共通感染症防疫の推進、薬剤耐性菌の対策、動物福祉の推進等を課題として、他の国際機関と連携して、人類と動物の共生社会、更に環境も含めた健全性の確保である「One World, One Health」を実践しています。

本会においても、単なる国際交流にとどまらず、国際活動に積極的に参画し、本会、地方獣医師会と構成獣医師の皆さんの活躍の場を広げ、将来に向けて組織の発展を図る必要があると確信しています。

昨年 5 月 21～22 日、スペインのマドリードで WVA と世界医師会 (World Medical Association : WMA) の共同主催による第 1 回 One Health に関する国際会議が開催され、私は日本医師会の横倉義武会長と共に出席しました。同会議の「自然災害のマネージメント、備えと医師・獣医師の連携」のセッションで、私は、「東日本大震災からの復興と期待、獣医師の役割とその展望」と題する講演を行いました。横倉日本医師会会長は、「日本における 2011 年大震災と福島原発事故、経験と復興に向けての医師と獣医師の連携」と題して講演されました。会場の 40 カ国から参加された医師と獣医師 330 名の皆さんは、大変熱心に聞いていただき、質疑応答後の拍手に感激いたしました。

この国際会議における我々の講演内容、本会と日本医師会とのより良い連携が WVA と WMA の関係者の目に留まり、WVA と WMA との連名で本会と日本医師会に、第 2 回の One Health に関する国際会議を日本で開催するように要請を受けました。日本医師会と協議を重ね、本年 11 月 10～11 日に、北九州市小倉で開催することになりました。準備期間が短いことが気がかりですが、より素晴らしい国際会議になるようにチャレンジしてまいります。本国際会議の前後に国内向けに関連会議やイベントの開催を計画していますので、会員並びに構成獣医師の皆さんには是非とも大勢のご出席を期待しております。本会や地方獣医師会の活動を世界にアピールする絶好の機会だと思っています。

また、昨年9月23～27日、モンゴルのウランバートルで第37回アジア獣医師会連合（FAVA）代表者会議が開催され、私が出席してマドリードで開催されたOne Health国際会議の内容を伝えました。また、この期間中に、本会が平成4～14年にかけて実施した獣医師国際研修の修了者9名が私を招待し、歓迎会を開催していただきました。歓迎会では、研修修了者全員がモンゴル獣医界の要職を務めていて、国際研修の成果が大きいものであることを再確認をいたしました。特に人材の育成は重要であることを改めて認識し、今後も機会があればこのような研修企画を本会が率先して進めるべきと痛感しました。

本会では、これまで述べました「One World, One Health」に関する課題のほか、獣医療や防疫対策また獣医学教育に係わる政策提言、獣医師会の組織強化、獣医師倫理の高揚、獣医師の処遇改善、チーム獣医療提供体制の整備、動物看護師制度整備の支援、女性獣医師の就業支援、動物の福祉と適正管理の推進、緊急災害時の動物救護活動の推進、獣医学術の振興と普及、獣医事人材の育成、生涯学習環境の整備と充実等、平成27年度活動計画はいずれも重要な課題であるため、本年も全力で取り組み、その成果を総会、理事会及び全国会長会議を介して、また会誌やホームページ、会長短信「春秋秋冬」等を利用してお伝えしてまいります。

最後になりますが、日本獣医師会の会員及び構成獣医師の皆様の本年のご活躍、ご発展、ご健勝をお祈りし、新年のご挨拶といたします。

---